

○ 伊豆諸島産シダ類余録 (西田 誠) Makoto NISHIDA: Miscellaneous notes on the ferns Izu Islands.

1) *Botrychium daucifolium* Wall. ホウライハナワラビ *Botrychium japonicum* Underw. sensu Mizushima, Miscellaneous Rep. Research Inst. for Nat. Resources. 38: 113 (1955).

水島正美氏が1954年11月青ヶ島で採集したオオハナワラビ (T)* は鋸歯が非常に粗く、担葉体 (共通柄) は長く、裸葉柄と略々等しい長さである。

これは正しく台湾琉球に産する、田川先生のいわゆるホウライハナワラビ *B. formosanum* Tagawa と云うもので即ち旧熱帯に広く分布する *B. daucifolium* である。*B. daucifolium* は北上するにつれて鋸歯は細かく、担葉体は短くなつて、オオハナワラビ *B. japonicum* となり、*B. formosanum* は両者の中間型と云うようなものである。東大理学部には、オオハナワラビとして、伊藤先生が1937年に屋久島で採つたものが2点あるが、それもこのホウライハナワラビである。

九州本土、四国、八丈島以北のものは全てオオハナワラビである。

2) *Ophioglossum nipponicum* Miyabe et Kudo. コハナヤスリ *Ophioglossum petiolatum* Hook. sensu H. Ito in Mizushima, ib. 38: 112, 113 (1955).

同じく水島氏が青ヶ島で採つたハナヤスリ (C. S. T.) は同一群落中に裸葉を欠き、孢子葉のみを持つものを含んでいる点で注目された。伊藤先生はそれを仮りに *O. petiolatum* と同定された。しかし *O. petiolatum* は葉脈の網目は粗く、その中の二次脈は余りよく発達しないか時には全くそれを生じない。又体長も少くも6-8cmはあり、青ヶ島産のように3-5cm程小さいものはない。脈理や体長より見てコハナヤスリ *O. nipponicum* に最も近いと思う。裸葉を全く生じないハナヤスリの例としてはサクラジマハナヤスリ *O. Kawamurae* Tagawa (日本・九州)、*O. simplex* Ridley. (スマトラ・マレー半島)、*O. lineare* Schlecht. & Brau. (ニューギニア)、*O. Ramosii* Copel. (フィリピン) がある。この中 *O. simplex* は明かに裸葉が二次的に退化したものであり、時にササクレ状の裸葉の痕跡をもっている。サクラジマハナヤスリは、はじめから (一次的に) 裸葉を欠いているものであり、原記載によれば *O. lineare* も亦これに近いようである。青ヶ島産の場合孢子葉だけのものの維管束行動はサクラジマハナヤスリのそれと同型であり、正常な型の裸葉が二次的に退化したものでなく、裸葉がそのまま孢子葉になつたものと思われる (これについては後日のべる)。

青ヶ島産コハナヤスリの裸葉は大きいものは2cm位から、小さいものは4-3mm位までいろいろあり、それらの大きさは連続している。しかし全く裸葉を欠くものとの間には明かな不連続がある。即ち *O. simplex* に見られるようなササクレ状の裸葉の痕跡は見られない。コハナヤスリに近いハマハナヤスリでは裸葉の小さいのは普通であり、植物体の大きさと比較すれば青ヶ島産コハナヤスリの4-3mmと云う裸葉の大きさは

決して畸型的なものではない。正常な形のハナヤスリの群落の中に孢子葉のみのものを畸型的に生ずると云う、このような例は今迄に知られていない。この比較解剖学的研究が今後に残されている。

3) **伊豆七島のハナヤスリ**。伊豆七島の中、八丈島、神津島、利島にハナヤスリ *O. vulgatum* L. が産することについているが、八丈島中之郷で 1950 年 7 月大井先生が採集された標本 (K) はコヒロハハナヤスリ *O. petiolatum* であり、里見氏が 1952 年 1 月八丈富士で採つたもの (N)、筆者が 1956 年 7 月に三根村八丈飛行場で採つたもの (C) は何れもコハナヤスリ *O. nipponicum* である。常谷氏が 1936 年 7 月 (K)、鈴木泰氏が 1953 年 8 月 (N) 何れも神津島で採集したハナヤスリはコヒロハハナヤスリである。又利島で鈴木泰氏が 1954 年 7 月に採つたもの (N) も亦コヒロハハナヤスリである。今迄の所、伊豆諸島にはコハナヤスリ、コヒロハハナヤスリの 2 種が知られている。

4) ***Athyrium otophorum* Koidzumi**. タニイヌワラビ。1956 年 7 月筆者が八丈島三原山火口原の西方の林内に採集 (C)。伊豆諸島では新しいもの。

5) ***Athyrium elegans* Tagawa var. *purpurascens* Tagawa**. ムラサキオトメワラビ。1956 年 7 月、八丈島三原山火口原の東端にわずかに残されている原始林の端で採集 (C)。タニイヌワラビに似ているが小羽片は耳状突起が丸く鈍頭、葉形は長楕円形又は披針形で下方の羽片が多少とも下を向いている。基準種オトメワラビとは、葉柄・羽軸が赤味を帯びていることで区別出来る。今迄屋久島でのみ知られていたものであり、八丈島が第二の産地である。

6) ***Elaphoglossum tosaense* Makino**. ヒロハアツイタ。1954 年 4 月千葉大学学生田中桃三君が八丈島三原山で採集 (C)。アツイタに比して葉柄が長く明瞭であること、葉柄上の鱗片が狭披針形であることにより区別出来る。伊豆諸島新産。

7) ***Lemmaphyllum microphyllum* Presl var. *obovatum* C. Chr.** オオマメツタ。八丈島三原山火口原東端の原始林中のシイの樹上で筆者が採集した。(1956 年 7 月) (C)。マメツタの葉が倒卵形に長くなり、葉柄も長くはつきりしたものである。台湾・琉球より紀伊半島附近まで分布している。伊豆諸島では新産。

8) ***Rumohra amabilis* Ching**. オオカナワラビ。八丈島にはミドリカナワラビ *R. nipponica* Ching. があることになつてゐるが、これはオオカナワラビの誤認ではないかと思われる。オオカナワラビは八丈三原山火口原及び水源地区にホソバカナワラビと交つて見られ決して珍らしくない。(西田 1949 年 12 月, 1956 年 7 月) (C)。兎に角、オオカナワラビは今迄八丈島の記録から落されている。

9) その他つまらぬことであるが八丈島産のリストに落されているシダをあげると、イヌシダ *Fujiiflix pilosella* Nakai et Momose., オオベニシダ *Dryopteris hondoensis* Koidzumi., トウゴクシダ *Dryopteris cystolepidota* C. Chr., キジノヲシダ *Plagio-*

gyria japonica Nakai. がある(何れも西田 1956 年 7 月, 八丈三原山にて採集)(C)。之等は決して珍らしいものではない。

イヌワラビ属の同定は田川先生にお願いした。記して感謝する。又ハナヤスリの標本を下さつた資源研の水島正美氏, 及び 1956 年 7 月筆者の八丈島採集行に際して, 採集に協力して下さつた八丈町樫立, 磯崎光太郎氏に感謝する。

略号: *(C): 千葉大学文理学部標本。(K): 科学博物館標本。(N): 東大農学部林学科標本。(S): 資源科学研究所標本。(T): 東大理学部標本。

(千葉大学文理学部生物学教室)

○ 北海道新産藓類植物 (1)* (斎藤 実) Minoru SAITO: New additional mosses to the flora of Hokkaido (1)*

1) *Cynodontium polycarpum* (Ehrh.) Schimp. イヌノハゴケ

Hab. On soil in alpine region. (本州中部)。北海道: 石狩国 (富良野岳 ca. 1800m No. 9255)。特に採集者名のないのは著者自身の採品。

2) *Dicranum Fauriei* Broth. et Par. ミヤマカモジゴケ

Hab. On humus. (本州北部)。北海道: 石狩国 (夕張岳 ca. 345m No. 4191)。

3) *Grimmia Doniana* Smith. タカネギボウシユゴケ

Hab. On rock in alpine region. (本州中部)。北海道: 日高国 (幌尻岳: ca. 1950m No. 19325)。

4) *Anomobryum gemmigerum* Broth. ヒメギンゴケモドキ

Hab. On ground in shady place. (本州中部)。北海道: 渡島国 (函館山——管原繁蔵——S. No. 24308-a)。

5) *Bryum cyclophyllum* (Schwaegr.) Br. eur. ランヨウハリガネゴケ

Hab. On soil. (本州中部)。北海道: 石狩国 (十勝岳 ca. 900m No. 8964)。

6) *B. plaucile* Card. ハスジハリガネゴケ

Hab. On ground in shady place. (本州中部)。北海道: 渡島国 (函館山——管原繁蔵——S. No. 24308-b)。

7) *Mnium marginatum* (Dicks.) Paris. ノコギリチョウチンゴケ

Hab. On limestone in woods. (本州中部)。北海道: 石狩国 (東山村 西達布 No. 21360)。

8) *Mnium speciosum* Mitt. カシワバチョウチンゴケ

Hab. On humus in coniferous forest. (本州中北部)。北海道: 石狩国 (美瑛町白金温泉~扇沼 ca. 1000m No. 16255)。

* 文部省科学研究助成費による研究の一部